３）小輪でコンパクトな花ゆり「Ｌｉ－９」

（花ゆり新品種「Ｌｉ－９」）

北海道立　花・野菜技術センター　研究部　花き科
北海道立中央農業試験場　農産工学部　細胞育種科

１．はじめに

北海道における花ゆりの切花栽培面積は約 83 ヘクタールで 1000 万本が生産され、生産額約 16 億円でカーネーションに次ぐ主要な切花品目である。しかし「カサブランカ」に代表される大輪のオリエンタル系品種への偏りが著しく、流通側からは近年の嗜好の多様化や家庭消費による新たな需要の増加に対応した多様な生産が求められている。また産地からも道外産地との差別化を図れる独自品種の育成が望まれている。これらのことから、胚培養を利用し、従来の品種にない小輪でコンパクトな草姿を有する花ゆり品種の育成を行った。

２．育成経過

平成６年に中央農業試験場でアジアティック系で主力品種である黄色い花色の「モナ」を種子親、花蕾が小さく赤橙色の野生種「チョウセンヒメユリ」を花粉親として交配した。遠縁で通常の種子獲得が困難なことから、胚培養を行い、得られた 16 個体を花・野菜技術センター圃場において養成し特性を調査した。平成 11 年に小輪性を有し草姿や収量に優良性が認められた１個体を選抜して球根を増殖し、平成 13 年から「Ｌｉ－９」の系統名を付して生産力検定試験や外部評価を実施した。

３．特性の概要（特記以外は「モナ」との比較）

（１）生育特性

冷凍貯蔵球根（注：次ページ下枠内）を用いた５月定植栽培での到花日数は約 65 日で「モナ」より約３日早い。葉枯病の発生が「モナ」よりやや多いが「チョウセンヒメユリ」より軽微である。

（２）切花特性

①花容：花弁色は鮮橙色で花弁基部に微小な斑点を有する。花形はすかしゆり型で花径 85 ～ 96mm の小輪咲きである。「チョウセンヒメユリ」のような不快臭はほとんどない。

②花房：花房の形は総状で、第１花梗の向きは垂直より約 40 度、花向きは同約 10 度でありコンパクトな花房形状である。球周 12 ～ 14cm の球根での平均的な花蕾数は 3.0 ～ 4.6 個でやや少ない。

③茎葉：草丈はやや短いが、茎長が長く花房とのバランスが良い。葉形は披針形で弱い光沢がある。

（３）収量性（採花本数）

多芽性を有し、球根１個から約４本の花茎が伸長するため、採花本数は「モナ」や「チョウセンヒメユリ」を大幅に上回る。球周 10 ～ 12cm 球は花蕾数の少ない花茎や規格外の花茎が多くなるため収量性はやや低下する。

（４）日持ち性

花蕾数５個の切花の観賞日数は「モナ」と同程度で 10.7 日である。

（５）増殖性

りん片挿しでは１枚から 2.0 ～ 2.5 個の子球を形成し「チョウセンヒメユリ」や他の品種より増殖性が高い。一年球から二年球への肥大倍率も高く、球重・球周とも他の供試種・品種を上回る。分球性が強く、切花栽培用二年球は多芽となる。切花栽培に実用的な大球の占有率は 79.3 %である。

（６）外部評価

花形の小輪性や花房・草姿がコンパクトであることへの評価が高く、新品種として十分な評価が得られた。ホームユースなど利用場面の拡大が期待され、早期普及が求められた。

４．普及態度

普及対照地域：全道一円（施設栽培）

普及見込み面積：0.8ｈａ

（栽培上の注意）

（１）凍結貯蔵球根を利用した５月定植栽培での成績であり、６月定植以降の抑制栽培（注：次ページ下枠内）および促成栽培は未検討である。

（２）アジアティック系品種としては葉枯病がやや発生しやすく、発生動向に注意し適切に防除する。

表１　冷凍貯蔵球利用５月定植作型での主要成績

系統名 品種名 種名	試験 年次 (平成)	供試 球数	定植 期 (月日)	到花 日数 (日)	草丈 (cm)	茎長 (cm)	花径 (mm)	花蕾 数 (個/本)	花梗 長 (cm)	葉幅 (mm)	葉長 (cm)	花茎 数 (本/球)	葉枯 発生 *1
Ｌｉ－９	13	10	5/17	64	77.6	61.6	96	3.0	4.2	10.4	9.0	3.9	少
	14	50	5/21	66	81.4	66.0	85	4.6	4.7	11.7	6.5	4.0	少
モナ	13	15	5/17	67	84.5	58.8	164	5.5	7.3	14.5	10.0	1.0	微
	14	20	5/21	69	86.5	63.0	162	6.3	7.5	15.0	10.8	1.0	微
チョウセン	13	10	5/17	57	97.0	80.3	75	6.7	5.2	10.3	9.2	1.0	中
ヒメユリ	14	30	5/21	57	122.6	95.5	77	10.0	5.1	8.6	11.7	1.0	中

供試球根の球周は12cm以上14cm未満　　*1 葉枯発生：無-微-少-中-多（観察による評価）

表２　採花本数の試算（平成14年）

系統名 品種・種名	球周*2 (cm)	花茎数 (本/球)	採花本数 (本/a)	規格別採花本数(本/a) 規格内*3		規格外
Ｌｉ－９	14-16	4.1	17455	14959	(11224)	2496
	12-14	4.0	17420	14302	(5017)	3118
	10-12	4.1	17418	8709	(2351)	8709
モナ	12-14	1.0	4221	4221	(3778)	0
ヒメユリ*1	12-14	1.0	2222	2222	(1926)	0

栽植密度：4444球/ａ　　*1 ヒメユリ：チョウセンヒメユリ
*2 球周：供試球根の球周
「14-16」は14cm以上16cm未満を表す（以下同様）
*3 規格：規格内は花蕾数３以上、規格外は同２以下であり、
(　)は花蕾数５以上の花茎の内数

表３　日持ち性試験の結果

系統・品種名	Li-9	モナ
供試本数	9	2
１花蕾観賞日数	4.6	5.4
５花蕾開花日数	5.8	5.5
５花蕾観賞日数	10.7	11.0

試験年次：平成14年

表４　りん片挿しによる増殖と養成試験の結果

系統名 種名 品種名	花色	一年増殖養成試験*2 りん片 平均重 (ｇ)	一年球 平均数 (球/片)	一年球 平均重 (ｇ)	二年養成試験（平成13年開始～同14年調査） 平均球重 定植時 (ｇ)	養成後 (ｇ)	肥大 倍率	平均*3 球周 (cm)	大球*4 占有率 (%)
Ｌｉ－９	橙系	1.5	2.5	1.8	2.7	33.3	12.3	13.7	79.3
ヒメユリ*1	橙系	1.4	1.3	3.6	3.8	23.3	6.1	12.1	46.4
プラトー	橙系	1.4	1.8	2.7	2.7	21.3	7.9	(10.8)	31.0
ベアトリクス	橙系	1.0	1.7	3.8	3.8	15.3	4.0	(10.6)	10.6
アラスカ	白系	1.6	0.9	3.5	3.5	17.1	4.9	(9.7)	20.5
ビバルディ	桃系	2.7	1.2	3.5	3.5	15.3	4.4	(11.1)	9.5

*1 ヒメユリ：チョウセンヒメユリ　　*2 一年増殖養成試験：平成12年開始～同13年調査
*3 平均球周：(　)内は球周６cm未満の小球を除いた数値　　*4 大球：球周12cm以上球

表５　アンケートによる外部評価

評価項目		平成13年	平成14年
花色・花形	良い	66.7	78.6
	悪い	0.0	7.1
全体の草姿	良い	58.3	78.6
	悪い	4.2	0.0
新奇性	高い	58.3	50.0
	低い	0.0	0.0
総合評価	良い	54.2	50.0
	悪い	4.2	7.1

単位：%

＊注
【冷凍貯蔵球根】
秋に掘上げた球根を冷凍(－1.5～－2.0℃)することにより翌年春以降まで貯蔵したもの。
【抑制栽培】【促成栽培】
ゆりの栽培では冷凍貯蔵球根を使用し６月以降に定植する栽培を「抑制栽培」、秋に掘上げた球根を低温処理によって休眠打破し、開花を早める栽培を「促成栽培」という。